

教育とは未来への希望

—教員養成教育・教師教育に関わって—

堀内 かおる

横浜国立大学教育人間科学部助教授



首都圏の教員養成大学を卒業してから同大学の修士課程に進学し、私立小学校と大学附属小学校で家庭科を教えた経験は、この教科に対する私の問題意識を喚起した。生活者育成というもっとも基本的で人間の生き方に関わる内容を扱う家庭科という教科が、学校の中で「女性的」な教科と見なされ、端に追いやられがちであることに不本意な思いを抱いた。そして、家庭科の抱える問題の根底には女性差別やジェンダーの問題があることにおぼろげながら気づき始めていた私は、昭和女子大学大学院博士後期課程の受験を決意し、伊藤セツ教授の指導を仰いだのだった。それから3年が過ぎ、博士の学位をいただくことができ、関東から遠く離れた地の大学に常勤の職を得たのは、平成5年9月のことだった。「研究者としての出自を忘れるな」という伊藤教授の言葉を胸に、私は彼の地に赴任した。

現在私は、かつて暮らしたことのある懐かしい街に戻り、教員養成を行う大学で教鞭を執っている。現職教員に対するリカレント教育としての研修や大学院教育も、私の主要な仕事のひとつとなっている（写真は、教員対象の「男女共同参画社会づくりと教育」ワークショップの様子である）。

教師を目指す学生たちには、これからの男女共同参画社会の担い手となっていく子どもたちを育てるため、家庭科という教科の教育を通して、固定的な性別役割にとらわれない意識を持たせて教育現場に送り出したいと考えている。また、現職教員たちには、今もなお学校に内在しているジェンダー文化への覚醒を促し、豊かな人権感覚を持って子どもたちに接することができるように、支援していきたい。

教育という仕事は未来への希望だと思える現在をもたらしてくれた昭和女子大学大学院での先生方の教えに感謝し、生活機構研究科の今後のますますの発展を祈念している。

（1992年度博士〔学術〕学位授与）